

Metis

メティス

2025
February



18歳成年に対応する消費者教育において考えるべきこと

18歳成年に限らず、おとなの消費者として扱われるということは、一人前の消費者としての力が求められることである。しかし、その力がどの程度備わっているのかが問われている。

私は過去10年にわたり、同僚や地域の専門家とともに、静岡大学の静岡キャンパスの5学部において、毎年約140名を対象に共通選択科目「消費について考えよう」を開講している。この授業では、「消費者教育の体系イメージマップ」の4つの対象領域（消費者市民社会の構築、商品等の安全、生活の管理と契約、情報とメディア）を体系的に学んでいる。

また、授業初回には受講生に対して、これまでの消費者教育の受講経験を確認している。総じて、7割弱の学生が何らかの受講経験があると回答している。しかし、具体的に学んだ内容としては「クーリング・オフ」「フェアトレード」「持続可能な社会」が多く挙げられる一方で、特に「家計の管理」などのお金のことはほとんど学んだ経験がなく、「契約」については、「クーリング・オフ」の半分程度の内容しか学んでいない。

「契約」に関しては、授業冒頭でクイズを行うのだが、正解する学生は全体の4割にとどまる。さらに授業後のコメントでは、「クーリング・オフをどのような場合でも適用できると誤解していた」といった基本的な理解不足にかかわる意見が多く見られる。

これらは、高校までの学びの結果ともいえるが、本来教えられているはずの内容が十分伝わっていない現状や、教わった内容が誤解されてしまう原因について、改めて丁寧に考える必要があるのではないだろうか。



色川 卓男 Takuo Irokawa

静岡大学学術院教育学領域教授。
(公財)家計経済研究所研究員を経て、現職。専門は消費者教育論、消費者行政論、生活経済学。現在、日本消費者教育学会副会長、消費者問題ネットワークしずおか代表、静岡市消費者教育推進地域協議会会長などを務める。



「現場はこんなことに困っています」悩みや疑問に専門家の視点から答える。

教えて、先生！

現場の先生方の日頃の授業の悩みや疑問について専門の先生にお伺いし、助言をいただきました。

セクシャルマイノリティの生徒や複雑な家庭環境の生徒が教室にはいます。自分自身のことや自分の家族のことにふれたり、考えたりすることが辛くなる場合もあります。また、多様な性などを受け入れられない生徒もいます。どのような配慮をして、授業を展開したらよいのでしょうか。



専門家からの **ADVICE**

まず、家庭科の授業で、家族や性のあり方は様々だという事実を、学問として、客観的にみんなで共有することが大切だと思います。歴史をふり返ると、私たちの無知が偏見や差別を生んできました。生徒は、自分や隣の席の友達、そして世界中の人々にそれぞれ「私の家族と暮らし」や「私らしさ」があり、標準的な家族概念や性別二元論などはもう古いと気づくことで、今を肯定されていると感ずることができそうです。

そのうえで、家庭科の教師として何ができるのでしょうか。私が考える一つ目は、教師が「(家族や性のあり方を) 語りたい時は語っていいよ」という姿勢を、言葉や態度で生徒に示すことだと思います。もちろん、言いたくなければ言わなくても構わないと思います。家族のことや性自認などは、今でも日本社会で「個人的なこと」「あまり公の場では…」と考えられがちで、「場がしらけるかもしれないと思って、言えなかった」「友達が悩んでいたようだが、ふれてはいけないと思っていた」などと感じている生徒がいます。「自分の家族ってふつうじゃないの?」「自分の心と体の性の感覚はおかしいの?」と思う生徒に、「何もおかしくない。おかしいのは、あなたをそう思わせている環境なんだよ!」と堂々と語れる教科が、まさに家庭科だと思います。

二つ目は、学校教育に携わる方々に、生徒の家族や性のあり方に関する知識をアップデートしてもらう

ために働きかけることです。これは、今回のような悩みをもつ生徒の、安心できる場所を増やすことにもなります。

未だに、すべての学校の教師が、多様化する家族の実態や性のグラデーションについて、理解しているとは言いがたい状況にあります。これは私の経験ですが、生徒に何か問題があると、「あの子の家は片親か?」「あの子は連れ子だからね!」と当然のように口にする教師がいます。私に言わせれば、「だから何ですか!?!」という思いです。

また、これも最近の話ですが、私がある学校で性の多様性の研修を担当した際、突然「こんな研修いらん!」「性別には男と女しかない!」と声を荒げた方がいました。片耳で聞きながら、私は堂々と研修を続けました。このような教師に、生徒が自分の家族や性に関する悩みを打ち明けることができるのでしょうか。

家庭科の先生方には、生徒の家族や性のあり方に関する「無意識の思い込み」が払拭されるように、教職員同士の日常会話や職員会議、研修会などの様々な場面で問題提起をして頂けたらと思います。先生方のその一言、その提案が、生徒の心の安全と、「私は私でいいんだ」という生き方を創るはずで。



もりた みさ
森田 美佐

高知大学教育学部教授。高知県生まれ。津田塾大学学芸学部卒業。企業、労働科学研究所協力研究員を経て、奈良女子大学大学院博士課程修了(博士:生活環境学)。雇用労働、ジェンダー平等、家族の責任と教育について現在も勉強中。

家庭科はSDGsと関連が深い教科だと思います。しかし、SDGsの多くのことを家庭科に委ねられてしまっている感覚があります。SDGsという言葉が先走って、家庭科から脱線してしまっている授業も見たことがあります。

家庭科という教科を通しておさえるべきSDGsのポイントを教えてください。



専門家からの **ADVICE**

詳細は、3月29日(土)に開催される
オンライン学習講座(裏表紙参照)でご確認ください。

気候変動や生物多様性の消失などで私たちの暮らしの根底が崩れ始めている現在、環境・社会・経済の統合的な視点から持続可能な社会を目指すSDGsは言うまでもなく人類史上画期的な目標です。特に「持続可能な社会の創り手を育てる」ことが現行学習指導要領で新たな目標に加わったことで、SDGsを通じて一人ひとりの生徒が知識としてだけでなく一人の生活者として持続可能な社会を自分事化する学びが求められています。

一方、家庭科がSDGsの受け皿として見られることで困惑されている先生方が多いことは容易に想像できます。確かにSDGsはすべての教科にかかわるものですが、家族や家庭、衣食住、消費や環境などにかかわる私たちの生涯の生活事象すべてを対象とする家庭科はSDGsを体現している唯一無二の教科にほかなりません。家庭科と密接にかかわる家政学の生みの親であるエレン・スワロウは、エコロジーの語源であるギリシャ語のOikosが「すべての人の家(環境)」という意味をもっていることを知り、その家をよりよいものとする学問として家政学を提唱しました。SDGsの理念はまさにエレン・スワロウの家政学に通じるものであり、この意味でもSDGs推進に果たす家庭科の役割が期待されています。

しかし、現実問題として家庭科(あるいは担当教師)がSDGsのすべてを担うことは非現実的であり、各教科が他教科との連携や総合的な探究の時間との連携な

どを通じて、学校全体でSDGsを扱うことが必要です。その際に大切な視点が「つながり(関係性)」です。SDGsの目標やターゲットを個別にみるのではなく、他の目標・ターゲットとのつながりを理解し、持続可能な社会の視点から生徒が一生活者(当事者)として理解すること。そして、意識変容、行動変容、さらには主権者として社会に働きかけて社会変容(SDGsと言う変革)につながる学びです。家庭科の内容である「家族・家庭・福祉」と「衣食住の生活と文化」、「持続可能な消費生活・環境」はそれぞれの内容においても、さらに各内容間においても密接なつながりがあります。これらの「つながり」を「見える化」することがSDGsの各目標・ターゲットをつなぐことを意味します。家庭科の内容同士のつながりや他教科などとのつながりを「見える化」することがSDGsにつながるのです。

SDGsの登場によって家庭科の役割や価値が誰にも見えるようになってきました。この機会を生かさない手はありません。SDGsを前向きに受け止め、家庭科の重要性を広く社会に理解していただく好機にしようではありませんか。



あべ おさむ
阿部 治

立教大学名誉教授、(公社)日本環境教育フォーラム理事長、ESD活動支援センター長、日本環境教育研究所代表理事など。日本における環境教育/ESD(持続可能な開発のための教育)のパイオニアとして構築・普及・国際連携などに従事。

「消費生活・環境」の学習内容は変化が激しいように感じています。特に「投資」が学習内容に入ってきてからは、金融業界からの資料がたくさん学校に届くようになりました。教科書ではほんの一部なので、「投資」にだけ外部講師を招いて時間をかけることには抵抗があります。実際に外部講師を依頼したこともあるのですが、内容が金融に特化していて、家庭科の学びとすべての内容が通じている訳ではないので今後どうしていくか悩んでいます。



専門家からの **ADVICE**

先生方のこのようなお悩みは、よく耳にします。回答になっているかは少し不安ですが、家庭科の中での「資産形成」を絡めたお金の取り扱い方について、私見を述べます。

まず、資産形成は「お金の管理」の一部として捉える必要があります。お金の管理とは、自分の収入や支出、貯蓄、資産形成などの流れを把握し、計画的に活用することで、充実した生活を送ることを意味します。資産形成を教える際には、「収入→支出→貯蓄→資産形成」という流れを理解させることが大切です。

次に、「お金の管理」において最も基本的なことは、収支を把握し、持続的に黒字を確保し、貯蓄する力を身につけることです。キャッシュレス社会の進展や多様な消費行動の影響により、計画的な支出管理は以前にも増して難しくなっています。そのため、収支を把握する方法、固定費と変動費の理解、固定費を抑える工夫など、具体的な実践力を養うことが必要です。

さらに、「何のためにお金を使い、管理するのか」を考えさせます。人生のライフイベントを想定した家計シミュレーションを行い、生活費・教育費・老後資金のバランスを視覚化することで、生徒にとって実践的な学びとなります。

ここでようやく、資産形成の学びが出てきます。資産形成は、生活費として必要な資金や万が一のための非常用資金を確保したうえで、さらに残る余剰資金について考える段階で初めて取り組む内容です。リスクとリターンの関係、株式・債券・投資信託の基本概

念などを伝え、生徒が興味をもった場合は、どのように自分で学びを深められるかを示します。たとえば、株式なら会社四季報を読み、その企業の経営を把握してから判断する、投資信託なら目論見書を確認する、といった視点をもたせることが有効です。家庭科の授業においては、資産形成の基本的な考え方を伝えることが目的であると位置づけるとよいでしょう。

また、家庭科の授業で資産形成を扱う場合、「金融商品にも広告がある」「なぜ金融機関は金融商品を販売したがるのか」「なぜ政府は新NISAを導入したのか」といった視点を取り入れることも、批判的思考力を養ううえで有意義です。金融業界からの資料が多く届く状況においても、情報の送り手の意図を考えながら、主体的に学ぶ姿勢を育てることが求められます。

有名な投資家であるウォーレン・バフェット氏でも、日々の生活では実用性を重視し、倹約を心がけています。このことから、資産形成の前にまずは収支のバランスを整え、お金を管理する力を身につけることが最も重要であるとわかります。

家庭科における金融教育は、単なる投資の知識ではなく、生活に根ざしたお金の管理と消費のあり方を総合的に学ぶものです。投資に偏ることなく、バランスのとれた授業展開を考えることで、より実生活に役立つ学びが提供できるのではないのでしょうか。



いらかわ たくお
色川 卓男

静岡大学大学院教育学領域教授。
詳細は、表紙参照。



酢のはたらき

3月30日(日)に開催される、
オンライン学習講座でも
紹介の予定です。詳しくは、
裏表紙をご覧ください。

「酢」は酸味を有する代表的な調味料ですが、調理における役割は味つけだけではなく、調理科学の観点から酢の性質に迫り、それらの調理性について学習するための実験例を紹介します。

実験 1

まさに卵型！ ポーチドエッグ

卵白が形よくまとまり、卵黄はとろとろの状態が魅力的なポーチドエッグ。この調理では湯に卵を入れた時に卵白が広がらず速やかに凝固することがポイントとなります。ここで役立つのが、酢がたんぱく質を凝固させるはたらきです。



実験の方法

- 1 鍋に水と酢大さじ 2 を入れて沸騰させ、火を止めて、おたまで円を描くように 10 回ほど混ぜて渦をつくりまします。
- 2 割っておいた卵を入れて、もう一度火をつけて、弱火で 3 分間ほど加熱します。

実験の解説

卵に含まれるたんぱく質は加熱によって凝固するため、湯に入れただけでも凝固するのですが、おおよそ pH3 である酢の酸性の性質によってもたんぱく質の凝固が促進されます。そのため、酢が入った湯に入れた卵は速やかに凝固が始まるのです。酢を使わずにつくったポーチドエッグと比較してみると卵白の広がり方に違いが現れています（下図）。

湯に酢が入っている



湯に酢が入っていない



実験 2

牛乳は 白い液体ではない!?

チーズは生乳に乳酸菌や凝乳酵素を加えて生乳のたんぱく質を凝固させてつくります。時間や設備が限られている学校や家庭では、酢を用いてチーズなどの食品をつくることで、たんぱく質の凝固と牛乳の組成を実感することができます。

実験の方法

- 1 鍋に牛乳 500 mL と塩小さじ 1/2 を入れて加熱し、小さな泡が出てきたら（約 60℃）火を止めます。
- 2 酢大さじ 2 を加えます。おたまで軽く混ぜてから 10 分間ほど置きます。この時、すでに凝固物が見えてきます。その後ガーゼなどで濾して水気を絞ります。



実験の解説

牛乳は白く見えますが、液体自体が白いのではなく、水分の中にたんぱく質や脂肪の小さな粒が分散していることで白く見えています。そして、牛乳に含まれるたんぱく質の一つであるカゼインは酸性になると凝集する性質があるため、酢を加えることで白い塊として出てきました。また、絞った液体には酸凝固しないホエイたんぱく質が含まれています。



実験 3

酢締めは酢につけるだけ？

「しめさば」でも知られている「酢締め」という調理方法。この調理は食材を酢につければ完成するのでしょうか。名前からして酢が用いられることは明らかですが、ただ酢につけるだけではありません。塩を使って「塩締め」をしてから酢につけるという工程が必要です。それでは、ただ酢につけるとどのような違いがあるのでしょうか。

色合いの変化が観察しやすく、部位による差異が出にくいように、まぐろの赤身を用いて実験をします。塩締めの塩分濃度や塩を使わず酢につけるだけなどの条件を設定して実験を行うことで、その違いを比較することができます。



実験の解説

まぐろの表面や断面の様子を見てみると、明らかに色合いや触った時の弾力に違いが現れています。まず、塩締めすることで魚肉に脱水が起こり身が締まります。さらに、酢につけることで、魚肉表面のたんぱく質が酸によって変性して硬くなります。同時に、酸性条件下に晒されたことでプロテアーゼが活性してたんぱく質がいくらか分解され、結果として身が脆くなり、歯切れのよい独特の食感が生まれます。この反応をいかにするには十分な塩分濃度が必要であり、2% 食塩水 (2) よりも 8% 食塩水 (3) が適当な濃度でした。一方、ただ酢につけただけの魚肉はぶよぶよとして引き締まっている感じがありません (4)。これは、酢の酸性によって筋肉の組織が緩んで保水性が向上し、そこへ水分が浸透して身が膨張していて凝固しにくい状態です。塩締めをした魚肉は酢で凝固しやすく、塩締めをしていない魚肉は膨張しやすいという差が生じていたのです。まぐろ以外でも、さばやあじなど、時期や地域によって入手しやすい魚肉を用いるのもよいです。



塩、酸がたんぱく質に作用

実験の方法

まぐろを 2cm 角ほどの大きさに切り、①未処理、②2% 食塩水浸漬後に酢、③8% 食塩水浸漬後に酢、④酢のみ、という 4 条件で比べてみます。



②、③はそれぞれの濃度の食塩水に、④は酢につけて 30 分間放置します。その後②、③は食塩水を流し、酢につけて 30 分間放置します。④は引き続き 30 分間酢につけたままにします。



酢のはたらきについて一例を紹介しました。演示のみでも理解しやすい実験であったり、放置するだけでよい実験であったりするので、授業でも扱いやすいのではないのでしょうか。教材開発や授業づくりのヒントとなりましたら幸いです。



つゆくほ みか
露久保 美夏

東洋大学食環境科学部食環境科学科。専門は調理学。大学で教育と研究を行いながら、子ども向けの講座を通して調理科学のおもしろさや五感を使って味わうことの大切さについて伝えている。

Media



『共働きと男性の家事労働』

近年、共働き世帯が増加する中で、男性の家事・育児参加が求められるようになってきているが、依然として家事労働は女性に偏っている。

この本では、男性が家事にどのように関わっているのか、どのような意識の壁が存在するのかを探り、男性がより積極的に家事労働に参加するための方法を提案している。

家庭内での役割を見直し、男女の平等な社会を実現するための貴重な参考資料となる一冊となっている。

著：久保 桂子
ドメス出版
定価：2,640円(税込)

information

開隆堂出版
主催

オンライン学習講座

「家庭科授業づくりキーポイント学習講座」

2025年3月29日(土)
14:00～15:30

●テーマ

現場の先生と専門の先生による座談会形式のトークイベント(予定)

●ゲスト

天野晴子先生(日本女子大学)
阿部治先生(立教大学)
那須野恭昂先生(神奈川県立大和高等学校)
村上飛鳥先生(神奈川県立横浜永取沢高等学校)

2025年3月30日(日)
14:00～15:30

●テーマ

食生活の学習で活用できる実験・実習について
楽しく解説!「酢のはたらき」

●ゲスト

露久保美夏先生(東洋大学)

こちらからも
申込可能



※申込は <https://peatix.com/group/11717970/events> から

『今日からはじめる省エネ教育』

「主体的、対話的、深い学び」から自発的行動を促すナッジや行動変容ステージモデルなどの行動科学の先進的な知見をもとに制作された一冊。

環境省実証事業では、この本に示した省エネ教育を小中高等学校で導入することで、約5%のCO₂削減効果および、約20%の省エネ行動実践率向上を確認している。生徒が身近な生活をふり返り、意識・体感できる教材とともに、ワークシートや指導案が掲載されており、確かな根拠をもとに安心して授業に活用できる一冊となっている。



著：三神 彩子
あかいし のりこ
赤石 記子
あらき ようこ
荒木 葉子

開隆堂出版
定価：3,080円(税込)

(編集部)

Metis

2025
February
非売品

令和7年2月18日印刷 令和7年2月25日発行 編集兼発行人 岩塚太郎 アートディレクション・DTP/パシフィック・ウイステリア
発行所/開隆堂出版株式会社
〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 03(5684)6121[営業] 03(5684)6118[販売] 03(5684)6116[編集]



開隆堂出版株式会社

〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03(5684)6111

北海道支社
東北支社
名古屋支社
大阪支社
九州支社

〒060-0042 札幌市中央区大通西11-4-21 52 山京ビル7階
〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡3-10-7 サンライン第66ビル5階
〒461-0004 名古屋市東区葵1-15-18 オフィスサンナゴヤ9階
〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16
〒810-0075 福岡市中央区港2-1-5 F Y C ビル3階

☎011(231)0403
☎022(742)1213
☎052(908)5190
☎06(6531)5782
☎092(733)0174